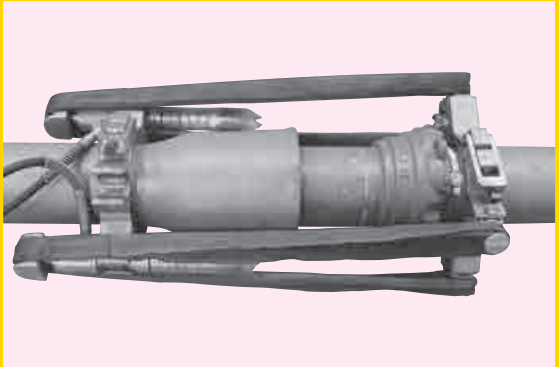
NS形リングジャッキ(油圧式・手動式)使用による GX形管の接合、解体方法

◆GX形管 φ75～φ300・φ400◆

手動リングジャッキ使用の場合　φ75～φ250
油圧リングジャッキ使用の場合　φ75～φ300・φ400



取 扱 説 明 書

株式会社 中野製作所
NAKANO CUTTER LIMITED

〒331-0057 埼玉県さいたま市西区中野林214番地
電話 048（622）3601㈹
FAX 048（623）7753

ホームページには、情報が満載！

http:/www.tfn.technoflex.co.jp/

「継手方式」と「呼び径」を選択すれば、必要工具、刃物などが、一発検索できるツールや、パイプ切断機、接合解体器具などのカタログ、取扱説明書などもご用意しています。

その他、**GX形管対応の製品**や、GX形管切断機「GXエース」の動画などもご用意しておりますので、ぜひ一度ご覧下さい！

販 売 店

No.1409. 1

本書は、「ＮＳ形ダクタイル鉄管の接合、解体」作業に用いる“ＮＳ形リングジャッキ”（油圧式、手動式）を使用し、ＧＸ形管の接合、解体の取扱要領を簡略的にまとめたものです。注意事項等も一部省略しております。

使用方法の詳細、注意事項については、「ＮＳ形油圧リングジャッキ」「ＮＳ形リングジャッキ」に記載されておりますので、併合して熟読し確認して下さい。

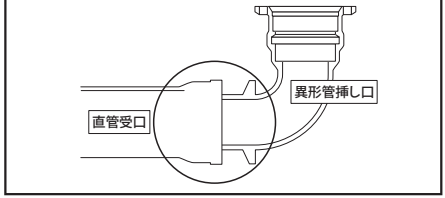
接合、解体作業にあたっては、「日本ダクタイル鉄管協会」の接合要領書にしたがって進めて下さい。

※本書の記載事項は、予告なく変更する事があります。

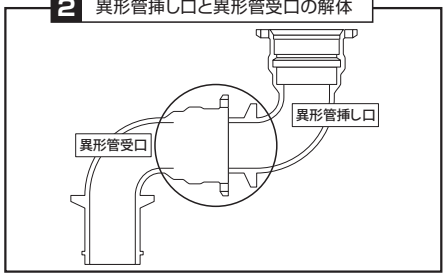
GX 形管の解体作業についての注意点

下記の解体作業には、ご使用出来ませんのでご注意ください。

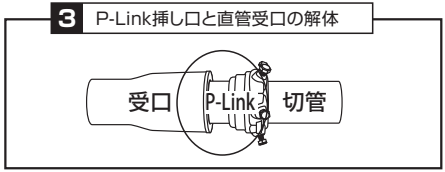
1 異形管挿し口と直管受口の解体



2 異形管挿し口と異形管受口の解体



3 P-Link挿し口と直管受口の解体



以上の解体作業の場合、管メーカー等にご相談ください。

目 次

❶ 注意事項 …… 1
❷ NS形油圧リングジャッキ部品名称 …… 2
❸ NS形手動リングジャッキ部品名称 …… 3
❹ 接合
- 1 P-Linkと切管の接合(φ75～φ300)・油圧式 …… 4～5
- 2 P-Link(切管)と受口の接合(φ75～φ300)・油圧式 …… 6～7
- 3 直管挿し口と直管受口の接合(φ75～φ300・φ400)・油圧式 …… 8～9
- 4 P-Linkと切管の接合(φ75～φ250)・手動式 …… 10～11
- 5 P-Link(切管)と受口の接合(φ75～φ150)・手動式 …… 12～13
- 6 直管挿し口と直管受口の接合(φ75～φ150)・手動式 …… 14～15
- 7 補助金具を使用しての接合(φ200・φ250)・手動式 …… 16～17
- 8 斜め引き接合 P-Link(切管)と受口の接合(φ75～φ150)・手動式 … 18～19
- 9 斜め引き接合 直管挿し口と直管受口の接合(φ75～φ150)・手動式 … 20～21

❺ 解体
- 1 P-Linkと切管の解体(φ75～φ300)・油圧式 …… 22
- 2 直管挿し口と直管受口の解体(φ75～φ300・φ400)・油圧式 …… 23
- 3 P-Linkと切管の解体(φ75～φ250)・手動式 …… 24～25
- 4 直管挿し口と直管受口の解体(φ75～φ250)・手動式 … 26～27

❻ 手動ポンプ・電動ポンプ操作法 …… 28
❼ 切換弁の操作法 …… 29
❽ 取扱注意とメンテナンス方法 …… 30

❶ 注意事項

注意 リングをパイプに取付ける時、リングとパイプの間に指を挟まないようにしてください。
(P4,6,8,10,12,14,16,18,20,22,23,24,25,26,27)

注意 チェーンレバーのフックをリングのフック部にセットする時に、指をはさまないようにしてください。
(P10,1113,15,17,19,21)

注記 専用のチェーンレバーは、本品の目的の為だけに使用してください。また操作はチェーンレバーの取扱説明書を読み、理解した上で使用してください。
(P10,11,13,15,17,19,21)

禁止 製品を改造しないでください。
改造品の修理には一切応じられません。(全製品)

禁止 部品は純正部品を使用してください。純正部品以外を使用しますと、製品の耐久性に影響し、作業に不具合を生じる事があり、修理に応じられません。

注意 点検で異常が見つかった時には、そのまま使用せず修理などの対策をとってください。(全製品)

注記 リング取付の際、10kg 以上の力を加えないでください。他の部品の破損の原因になります。(手動リングジャッキの場合)
(P10,12,14,16,18,20,24,25,26,27)

注記 チェーンレバーを操作して、リングがはずれた時は、リングの締め付けが弱いのではなく、施工上の問題です。
●管がまっすぐになっていない。
●油、滑剤がベルトに付着している。
●ロックリング、ゴム輪等の異常を確認して再度操作してください。
(P10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,24,25,26,27)

注記 挿し口端面がロックリングを通過しない場合、解体して異常を確認し、ロックリング・ゴム輪を必ず交換して、始めからやり直してください。
リングが曲がるような無理な力は絶対かけないでください。
(P4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21)

注意 接合の際、挿し口端面がライナに当ったら挿入を停めてください。それ以上の挿入するとリングが破損します。
(接合時、ライナー使用時)

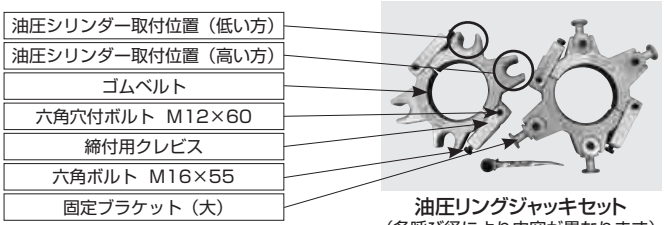
注意 挿し口端面が受口の奥に当たったら挿入を停めてください。それ以上挿入するとリングが破損します。
※挿入規定寸法は、接合要領書を参照ください。

禁止 ゴム輪、ロックリングがずれたまま挿入しないでください。異常な力がかかりリングが破損します。
(P4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21)

注記 使用方法でチェーンレバーを取り外す場合にはパイプの接合完了後すぐにリングジャッキ本体を外さず、フックを掛けたままツマミを(DN)に合せチェンを緩め、最後にリングジャッキを取り外すようにしてください。この順序で作業を行う事により、ロックがかかった状態になりませんので次回の使用には問題ありません。
(P10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21)

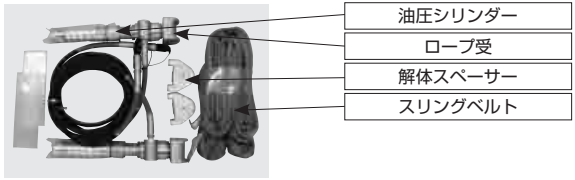
禁止 再度接合する時には、必ずゴム輪は新しいものと交換し解体したゴム輪は使用しないでください。

❷ NS形油圧リングジャッキ部品名称

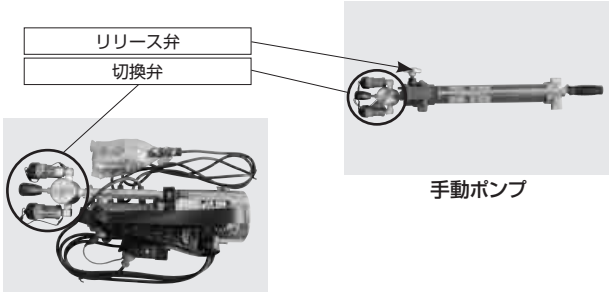


油圧リングジャッキセット
（各呼び径により内容が異なります）

油圧シリンダー、手動ポンプ



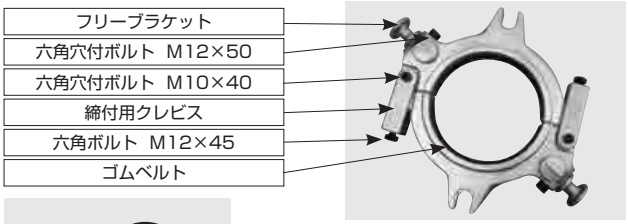
油圧シリンダーセット
※スリングベルトは、使用する呼び径により長さが異なります。
（φ 75～φ 250 は 2.0 m、φ 300・φ 400 は 2.3 m）

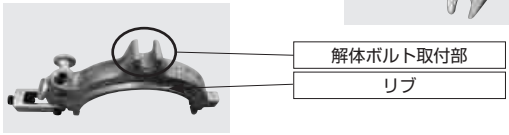


手動ポンプ

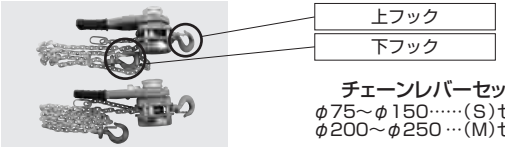
電動ポンプ

❸ NS形手動リングジャッキ部品名称





NSチェーンレバー部品名称



チェーンレバーセット
φ75～φ150……(S)セット
φ200～φ250…(M)セット

オプション部品

解体矢打込み工具

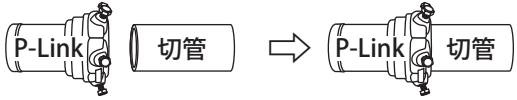
解体矢
直管用(φ75～φ250)……3t×300L
異形管用(φ75～φ250)…3t×190L
直管用(φ300･φ400)……3.5t×300L
異形管用(φ300･φ400)…3.5t×170L

滑剤注入器及び滑剤ポンプ

薄板

❹ 接合

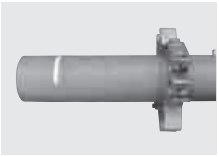
1 P-Link と切管の接合（φ 75 ～φ 300）・油圧式



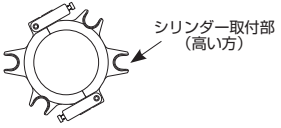
※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

1

■切管へリングを取付けます。

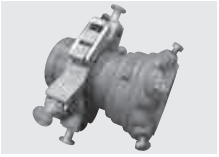


①切管端面より約 500 mm離して取付けます。
②予め、挿し口に挿入量を白線で明示します。
③リング取付部をきれいに清掃してください。
④シリンダー取付部(高い方)が、両側、真横になる様取付けます。

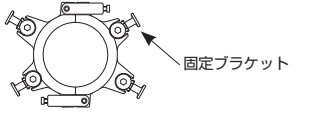


2

■P-Link にリングを取付けます。



①リング取付部をきれいに清掃してください。
②固定ブラケット(大)が時計方向の、2 時、4 時、8 時、10 時の位置になるように取付けます。



3

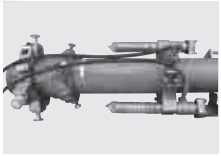
■挿し口部と、受口のゴム輪部分に滑剤を塗布します。

①予め、押しボルト、爪、ゴム輪等が所定の位置にあるか確認し、ほこり等無いよう清掃してください。

4

■P-Link を切管挿し口へあずけます。

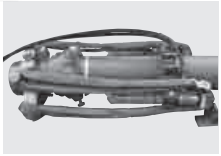
5



■油圧シリンダーを取付けます。

①予め油圧シリンダーにロープ受を取付け、切管に取付けたリングのシリンダー取付部（高い方）に、シリンダーを取付けます。（両側）
②シリンダー外側のスプリングを縮め取り付けてください。

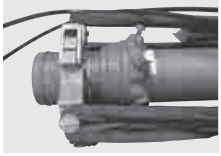
6



■スリングベルトを取付けます。

①挿し口リングの固定ブラケット(大)に取付け、写真のようにロープ受と、三角形が出来るよう取付けます。(両側)
②取り付け時、スリングベルトにたるみが出ないように、固定ブラケットに巻きつけてください。
③スリングベルトにねじれがないようにしてください。

7



■手動ポンプとシリンダーをつなぎ 規定の寸法まで接合を行います。

①手動ポンプ及び、切換弁の操作方法（P 28 ～ 29）を参照し行ってください。

8

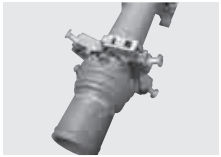
■チェックゲージを用い確認を行ってください。

※チェック方法などは、「ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書」を参照ください。

2 P-Link(切管)と受口の接合(φ75～φ300)・油圧式

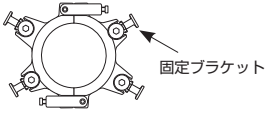
※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

1

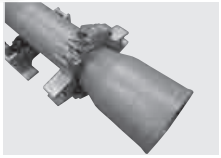


■切管(P-Link)へリングを取付けます。

①リング取付部をきれいに清掃してください。
② P-Link 端面より 30 mm程度のところに取付けます。
③固定ブラケット(大)の位置が、時計方向の２時、４時、８時、10 時の位置にくるように取付けます。

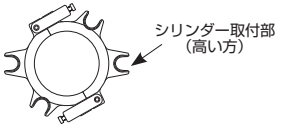


2



■受口にリングを取付けます。

①リングは可能な限り受口端面に近い位置に取付けます。
②リング取付部をきれいに清掃してください。
③リングのシリンダー取付部の高い方が真横にくるように取付けます。



3

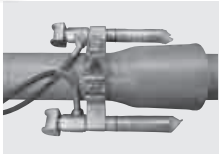
■P-Linkの挿し口部と、受口のゴム輪部分に滑剤を塗布します。

①予め、受口にロックリング・ゴム輪が規定の寸法に取り付けてあるか確認してください。
② P-Link の接合部及び、受口管の接合部をきれいに清掃してください。

4

■切管（P-Link）を受口へあずけます。

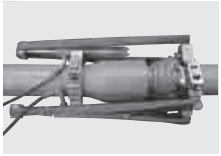
5



■油圧シリンダーを取付けます。

①予め油圧シリンダーにロープ受を取付け、受口に取付けたリングのシリンダー取付部（高い方）に、シリンダーを取付けます。（両側）
②シリンダー外側のスプリングを縮め取り付けてください。

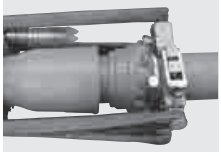
6



■スリングベルトを取付けます。

①挿し口リングの固定ブラケット（大）に取付け、写真のようにロープ受と、三角形が出来るよう取付けます。（両側）
②取り付け時、スリングベルトにたるみが出ないように、固定ブラケットに巻きつけてください。
③スリングベルトにねじれがないようにしてください。

7



■手動ポンプとシリンダーをつなぎ規定の寸法まで接合を行います。

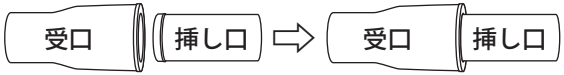
①手動ポンプ及び、切換弁の操作方法（P 28 ～ 29）を参照し行ってください

8

■チェックゲージを用い確認を行ってください。

※チェック方法などは、「ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書」を参照ください。

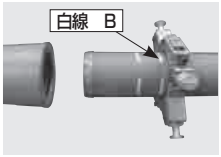
3 直管挿し口と直管受口の接合(φ75～φ300・φ400)・油圧式



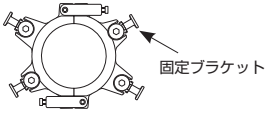
※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

1

■挿し口へリングを取付けます。

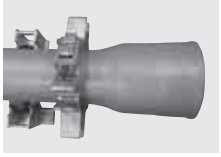


①白線Ｂの外側に取り付けます。
②切管挿し口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。
③固定ブラケット(大)が時計方向の、2 時、4時、8 時、10 時の位置になるように取付けます。

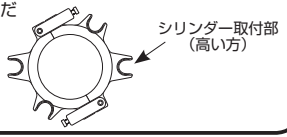


2

■受口にリングを取付けます。



①シリンダー取付部の高い方が真横にくるように取付けます。
②切管受口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。
③リングは可能な限り受口端面に近い位置に取付けてください。



3

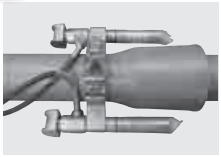
■挿し口部と、受口のゴム輪部分に滑剤を塗布します。

①予め、受口にロックリング・ゴム輪が規定の寸法に取り付けてあるか確認してください。
②挿し口の接合部及び、受口管の接合部をきれいに清掃してください。

4

■挿し口を受口へあずけます。

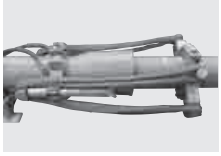
5



■油圧シリンダーを取付けます。

①予め油圧シリンダーにロープ受を取付け、受口に取付けたリングのシリンダー取付部（高い方）に、シリンダーを取付けます。（両側）
②シリンダー外側のスプリングを縮め取り付けてください。

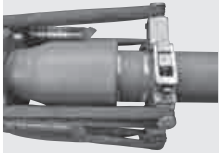
6



■スリングベルトを取付けます。

①挿し口リングの固定ブラケット（大）に取付け、写真のようにロープ受と、三角形が出来るよう取付けます。（両側）
②取り付け時、スリングベルトにたるみが出ないように、固定ブラケットに巻きつけてください。
③スリングベルトにねじれがないようにしてください。

7



■手動ポンプとシリンダーをつなぎ規定の寸法まで接合を行います。

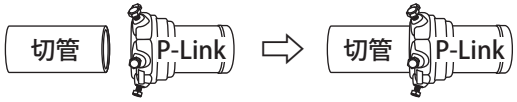
①手動ポンプ及び、切換弁の操作方法（P 28～29）を参照し行ってください。

8

■チェックゲージを用い確認を行ってください。

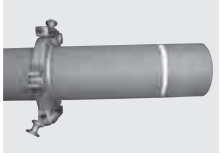
※チェック方法などは、「ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書」を参照ください。

4 P-Linkと切管の接合(φ75～φ250)・手動式



※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

1



■切管(挿し口)へリングを取付けます。

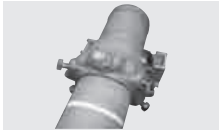
①切管端面より400mm離して取付けます。
②予め、挿し口に挿入量を白線で明示します。
③切管挿し口外面の接合部をきれいに清掃してください。
④リングのリブを端面側に向け取付けます。
⑤フリーブラケットが真横になるように取付けます。

2

■P-Linkのゴム輪と切管挿し口に滑剤を塗布する。

①予め、押しボルト、爪、ゴム輪等が所定の位置にあるか確認し、ほこり等無いよう清掃してください。

3



■ P-Link を切管挿し口へあずけます。

4

■チェーンレバーを取付けます。

①P-Linkのフックをセットする2ヶ所の穴へチェーンレバーの上フックをセットします。(両側)

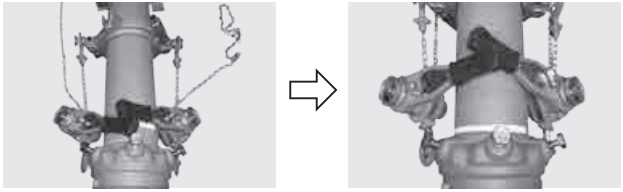
②チェーンレバーの下フックを切管挿し口側のリングのフリーブラケットに取付けます。(両側)

5

■接合

①チェーンレバー切換えレバーを遊転にし、チェーンのたるみを取り、切換えレバーを ⇧ ＵＰにしてください。

②パイプがまっすぐ入るように、チェーンレバーの柄を交互左右に操作し、ゴム輪を通過させ規定寸法まで挿入してください。



6

■チェックゲージを用い確認を行ってください。

※チェック方法などは、「ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書」を参照ください。

7

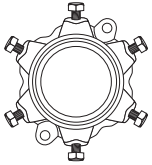


図 -1

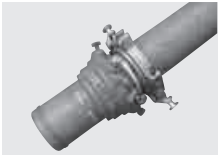
■押しボルトの締め付け

①挿入完了後、図 -1 の順序でトルクレンチを用い、押しボルトを均等に規定の締付トルク 100 N・mにて締め付けます。

5 P-Link(切管)と受口の接合(φ75～φ150)・手動式

※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

1

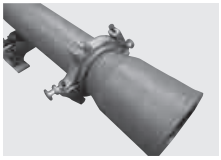


■P-Link(切管)へリングを取付けます。

(φ 200・φ 250 の場合、取付方法が異なります。P16～17 ページを参照ください)

① P-Link 端面より 30 mm程度のところに取付けます。
②切管挿し口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。
③リングのリブを P-Link 側に向け取付けます。
④フリーブラケットが真横になるように取付けます。

2



■受口にリングを取付けます。

①リングは可能な限り受口端面に近い位置に取付けてください。
②リング取付部をきれいに清掃してください。
③リングのリブを端面側に向け取付けます。
④フリーブラケットが真横になるように取付けます。

3

■P-Linkの挿し口部と、受口のゴム輪部分に滑剤を塗布します。

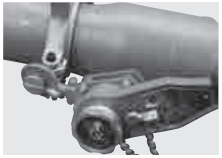
①予め、受口にロックリング・ゴム輪が規定の寸法に取り付けてあるか確認してください。
②P-Linkの接合部及び、受口管の接合部をきれいに清掃してください。

4

■P-Link(切管)を受口へあずけます。

5

■チェーンレバーを取付けます。



①受け口側に取り付けたリングのフリーブラケット部にチェーンレバーの上フックをセットします。(両側)

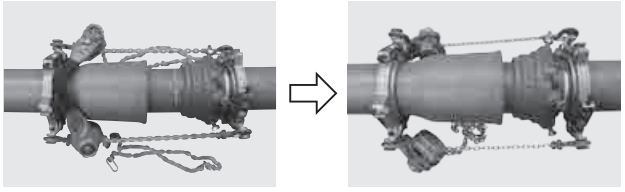
②チェーンレバーの下フックをP-Link(切管) 側のリングのフリーブラケットに取付けます。(両側)(φ200・φ250の場合、取付方法が異なります。P16～17ページを参照ください)

6

■接合

①チェーンレバー切換えレバーを遊転にし、チェーンのたるみを取り、切換えレバーを ⇧ ＵＰにしてください。

②パイプがまっすぐ入るように、チェーンレバーの柄を交互左右に操作し、ゴム輪・ロックリングを通過させ規定寸法まで挿入してください。

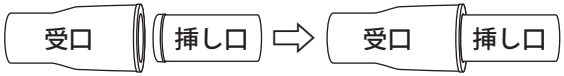


7

■チェックゲージを用い確認を行ってください。

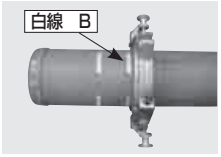
※チェック方法などは、「ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書」を参照ください。

6 直管挿し口と直管受口の接合(φ75～φ150)・手動式



※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

1

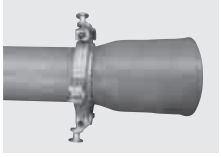


■挿し口へリングを取付けます。

（φ200・φ250の場合、取付方法が異なります。P16～17ページを参照ください）

①白線Bの外側に取り付けてください。
②切管挿し口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。
③リングのリブを挿し口端面側に向け取付けます。
④フリーブラケットが真横になるように取付けます。

2



■受口にリングを取付けます。

①リングは可能な限り受口端面に近い位置に取付けてください。
②切管受口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。
③リングのリブを端面側に向け取付けます。
④フリーブラケットが真横になるように取付けます。

3

■挿し口部と、受口のゴム輪部分に滑剤を塗布します。

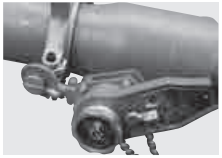
①予め、受口にロックリング・ゴム輪が規定の寸法に取り付けてあるか確認してください。
②挿し口の接合部及び、受口管の接合部をきれいに清掃してください。

4

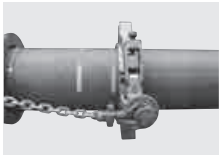
■挿し口を受口へあずけます。

5

■チェーンレバーを取付けます。



①受け口側に取り付けたリングのフリーブラケット部にチェーンレバーの上フックをセットします。（両側）



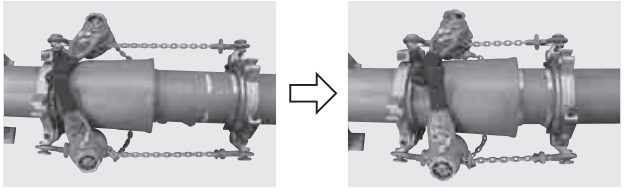
②チェーンレバーの下フックを挿し口側のリングのフリーブラケットに取付けます。(両側)
（φ200・φ250の場合、取付方法が異なります。P16～17ページを参照ください）

6

■接合

①チェーンレバー切換えレバーを遊転にし、チェーンのたるみを取り、切換えレバーを ⇧ UPにしてください。

②パイプがまっすぐ入るように、チェーンレバーの柄を交互左右に操作し、ゴム輪・ロックリングを通過させ規定寸法まで挿入してください。



7

■チェックゲージを用い確認を行ってください。

※チェック方法などは、「ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書」を参照ください。

7 補助金具を使用しての接合(φ200・φ250)・手動式

補助金具セット

1

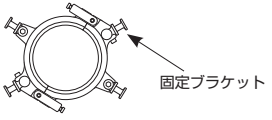
■固定ブラケット(S)をリングに取付けます。

①解体ボルト取付部に付属の座金、ボルトで取付、スパナ等で締め付けてください。
②固定ブラケット（S）を取付けたものを、2個用意してください。(P17 ※ 1)

2

■挿し口管にリングを取付けます。

①白線Bの外側に取り付けます。（挿し口管使用の場合）P-Link（切管）の場合は、P-Link より 30 mm程度離して取り付けてください。
②リング取付部をきれいに清掃してください。
③ 固定ブラケット(S)とフリーブラケットの位置が、時計方向の2時、4時、8時、10時の位置にくるように取付けます。



3

■固定ブラケット(S)とフリーブラケットに補助金具を両側、取付けます。

①写真のように、補助金具が管側に折れ曲がるように取り付けてください。

4

■チェーンレバーを両側、取り付けます。

①写真のように、補助金具、真ん中の長穴に下フックを取り付けてください。

※チェーンレバーの操作、受口管へのリングの取付等、その他の使用方法は、P-Link(切管)と受口管の接合の場合、P12～13を参照ください。
挿し口管と受口管の接合の場合、P14～15 を参照ください。

※ 1 右の写真のもの（固定ブラケットSを取付けたもの）を 2 個用意

8 斜め引き接合　P-Link(切管)と受口の接合(φ75～φ150)・手動式

切削幅又は、施工上スペースが取れない場合、下記の方法でも接合が行えます。(但し、部品の追加が必要になります。)
※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

※斜め引きでの接合を行う場合、標準部品以外に新たに「固定ブラケット(S)セット」が２個必要となります。

※斜め引きでの接合は、「φ75～φ150」が対象となります。

1

■固定ブラケット(S)をリングに取付けます。

①解体ボルト取付部に付属の座金、ボルトで取付、スパナ等で締め付けてください。
②固定ブラケット（S）を取付けたものを、２個用意してください。(P17 ※ 1)

2

■ P-Link(切管)へリングを取付けます。

①取付の際、先ほど「固定ブラケット（S）」を取付けた２個の内１個を使用します。
② 写真の様に、フリーブラケットと固定ブラケット(S)の位置が時計の2時、10時の位置にします。
③ P-Link 端面より 30 mm程度のところに取付けます。
④切管挿し口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。
⑤リングのリブを P-Link 側に向け取付けます。

3

■受口にリングを取付けます。

①取付の際、先ほど「固定ブラケット(S)」を取付けた2個の内1個を使用します。
②写真の様に、フリーブラケットと固定ブラケット(S)の位置が時計の2時、10時の位置にしてください。
③リングは可能な限り受口端面に近い位置に取付けてください。
④切管挿し口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。

4

■P-Linkの挿し口部と、受口のゴム輪部分に滑剤を塗布します。

①予め、受口にロックリング･ゴム輪が規定の寸法に取り付けてあるか確認してください。
②P-Linkの接合部及び、受口管の接合部をきれいに清掃してください。

5

■ P-Link(切管)を受口へあずけます。

6

■チェーンレバーの取付

①受け口側に取り付けたリングのフリーブラケット部と固定ブラケット(S)に上フックをセットします。

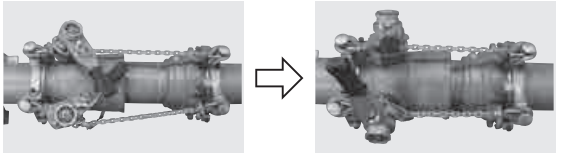
②チェーンレバーの下フックを P-Link（切管）側のリングのフリーブラケットと固定ブラケットに取付けます。（両側）

7

■接合

①チェーンレバー切換えレバーを遊転にし、チェーンのたるみを取り、切換えレバーを⇧UPにしてください。

②パイプがまっすぐ入るように、チェーンレバーの柄を交互左右に操作し、ゴム輪･ロックリングを通過させ規定寸法まで挿入してください。

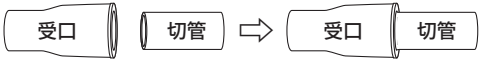


8

■チェックゲージを用い確認を行ってください。

※チェック方法などは、「GX形ダクタイル鉄管接合要領書」を参照ください。

9 斜め引き接合　直管挿し口と直管受口の接合(φ75～φ150)・手動式



切削幅又は、施工上スペースが取れない場合、下記の方法でも接合が行えます。(但し、部品の追加が必要になります。)
※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

※斜め引きでの接合を行う場合、標準部品以外に新たに「固定ブラケット(S)セット」が２個必要となります。

※斜め引きでの接合は、「φ75～φ150」が対象となります。

1

■固定ブラケット(S)をリングに取付けます。

①解体ボルト取付部に付属の座金、ボルトで取付、スパナ等で締め付けてください。
②固定ブラケット(S)を取付けたものを、２個用意してください。(P17 ※１)

2

■挿し口へリングを取付ける

①取付の際、先ほど「固定ブラケット（S）」を取付けた２個の内１個を使用します。
②白線Bの外側に取り付けます。
③切管挿し口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。
④リングのリブを挿し口端面側に向け取付けます。
⑤写真の様に、フリーブラケットと固定ブラケット（S）の位置が時計の２時、10時の位置にします。

3

■受口にリングを取付けます。

①取付の際、先ほど「固定ブラケット(S)」を取付けた2個の内1個を使用します。
②写真の様に、フリーブラケットと固定ブラケット(S)の位置が時計の2時、10時の位置にしてください。
③リングは可能な限り受口端面に近い位置に取付けてください。
④切管挿し口外面のリング取付部をきれいに清掃してください。

4

■挿し口部と、受口のゴム輪部分に滑剤を塗布します。

①予め、受口にロックリング･ゴム輪が規定の寸法に取り付けてあるか確認してください。
②挿し口接合部及び、受口管の接合部をきれいに清掃してください。

5

■挿し口を受口へあずけます。

6

■チェーンレバーの取付

①受け口側に取り付けたリングのフリーブラケット部と固定ブラケット(S)に上フックをセットします。

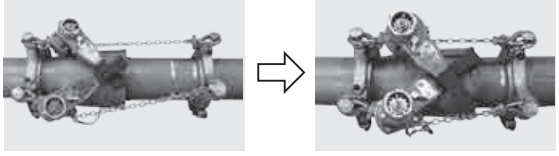
②チェーンレバーの下フックを挿し口側のリングのフリーブラケットと、固定ブラケット（S）に取付けます。

7

■接合

①チェーンレバー切換えレバーを遊転にし、チェーンのたるみを取り、切換えレバーを⇧UPにしてください。

②パイプがまっすぐ入るように、チェーンレバーの柄を交互左右に操作し、ゴム輪･ロックリングを通過させ規定寸法まで挿入してください。



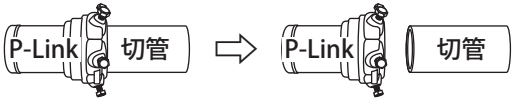
8

■チェックゲージを用い確認を行ってください。

※チェック方法などは、「GX形ダクタイル鉄管接合要領書」を参照ください。

⑤ 解体

1 P-Link と切管の解体（φ 75 ～φ 300）・油圧式



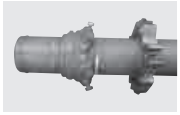
※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

1 ■全ての押しボルトを十分緩めます。

2

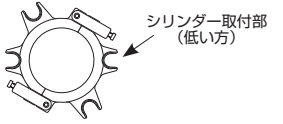
■薄板を使用し、挿し口に食い込んだ爪を外します。（全周）

3

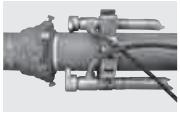


■挿し口にリングを取付けます。

①リング取付部をきれいに清掃してください。
②P-Linkから、約200mm程度、離れた所に取付けます。
③シリンダー取付部(低い方)が真横になるように取付けます。



4



■油圧シリンダーを取付けます。(両側)

①油圧シリンダーには予め、解体スペーサーを取付けます。
②解体スペーサーの脚部は管側に向けて下さい。
③解体スペーサーが押しボルトに干渉する場合、位置を移動させてください。

5

■油圧シリンダーと手動ポンプをつなぎ解体を行います。

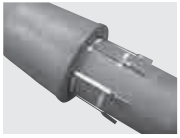
①手動ポンプを操作し解体を行います。
②手動ポンプの使用方法は、P-28～29を参照ください。

6 ■解体完了。

2 直管挿し口と直管受口の解体(φ75～φ300・φ400)・油圧式

※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

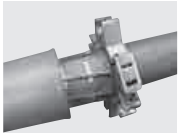
1



■解体矢の打込み

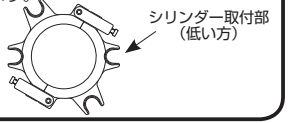
①解体矢の打込み本数、小口径の場合、約８～12本
②打込み工具を使用し打込んで下さい。
③打込む際、解体矢に滑剤を塗布して下さい。
④接合し時間が経過している場合、滑剤注入器を使用してください。

2

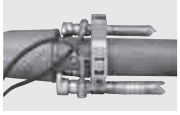


■挿し口にリングを取付けます。

①解体矢の近くに取付けます。
②リング取付部をきれいに清掃してください。
③シリンダー取付部（低い方）が真横になる様に取付けます。



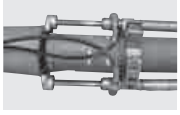
3



■油圧シリンダーを取付けます。(両側)

①油圧シリンダーには予め、解体スペーサーを取付けます。
②解体スペーサーの脚部は管側に向けて下さい。

4

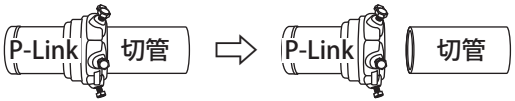


■油圧シリンダーと手動ポンプをつなぎ解体を行います。

①手動ポンプを操作し解体を行います。
②手動ポンプの使用方法は、P28～29を参照ください。

5 ■解体完了。

3 P-Link と切管の解体（φ 75～φ 250）・手動式



※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

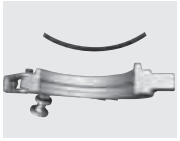
1

■全ての押しボルトを十分緩めます。

2

■薄板を使用し、挿し口に食い込んだ爪を外します。

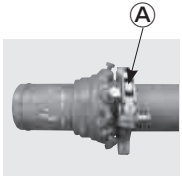
3



■リング内側のベルトを外します（半円組　2ヶ）

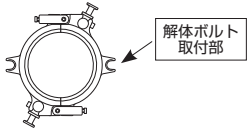
※解体に使用する場合、リング側面を利用し解体を行います。
従ってベルトを取付けた状態では、解体が行えませんので、必ずベルトを取り外してください。

4

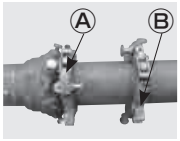


■ベルトを外したリング Ⓐ を管へ取付けます。

①取り付けの際、リブが P-Link 側になるようにします。
② P-Link の締付ボルトに干渉しない様にし、リングと P-Link の端面が接するように取付けます。
③解体用ボルト取付部が真横に来る様取付けます。
④リングは軽く締め付ける程度で取り付けてください。



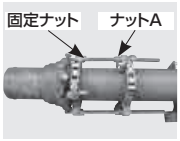
5



■ベルトの付いたリング Ⓑ を取付けます。

① Ⓐ のリングから、200 mm程度離なしリブが切管側になるように取付けます。
② Ⓐ のリングと Ⓑ のリングの解体ボルト取付部が同じ位置にくるよう取付ける。
③リング取付部をきれいに清掃してください。

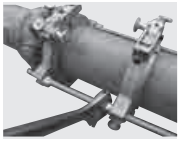
6



■解体ボルトを取付けます。（両側）

①解体ボルトの固定ナット側を、Ⓐ のリングの解体ボルト取付部にセットします。
②もう一方の Ⓑ のリングの解体ボルト取付部にナットAを取付け、張るような形に取り付けます。（両側）

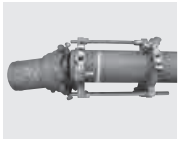
7



■解体

①ナットAを、レンチ、スパナ等で交互にゆっくりとネジ出しして管を解体してください。
②挿し口突部がロックリングに引っ掛かった場合は無理に抜こうとせずに管を上下左右に振ったり、押しボルトが全てゆるんでいるか、P-Link の爪が全て外れているか確認してください。

8

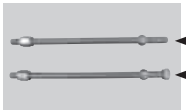


■解体完了

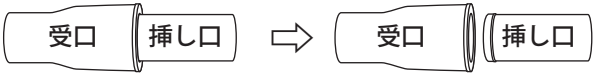
チェーンレバー対応呼び径

φ75～φ150…チェーンレバー(S)
φ200～φ250…チェーンレバー(M)

解体ボルトの対応呼び径

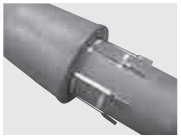


4 直管挿し口と直管受口の解体(φ75～φ250)・手動式



※ご使用前には、ＧＸ形ダクタイル鉄管接合要領書を熟読しご使用下さい

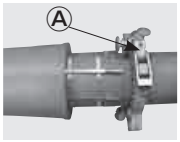
1



■解体矢を打込みます。

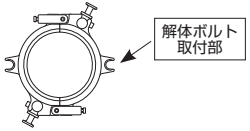
①解体矢の打込み本数、小口径の場合、約８～12本
②打込み工具を使用し打込んでください。
③打込む際、解体矢に滑剤を塗布してください。
④接合し時間が経過している場合、滑剤注入器を使用してください。

2

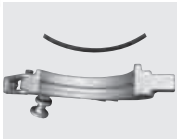


■挿し口にリング Ⓐ を取付けます。

※この時、取付のリングはベルトが付いた物です。
①解体矢から約 50 mm離れた所に取付けます。
②リブが挿し口側になる様に取付けます。
③解体ボルト取付部が、真横に来る様に取付けます。
④リング取付部をきれいに清掃してください。



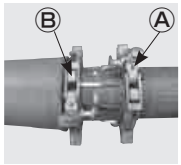
3



■リング内側のベルトを外します(半円組　2ヶ)

①解体に使用する場合、リング側面を利用し解体を行う為、ベルトが取付けた状態では、解体が行えませんので、必ずベルトを取り外してください。

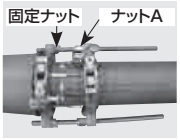
4



■ベルト外したリング Ⓑ を取付けます。

①解体矢の上から取付けます。
②リブを受け口側にし、解体ボルト取付部がリング Ⓐ と同じ位置にくるように取り付けます。
③リングの端面と管の受口端面が、接するようにし軽く締め付ける程度で取り付けます。

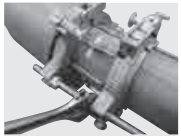
5



■解体ボルトをセットします。(両側)

①解体ボルトの固定ナット側を、受口側のリング Ⓐ の取付部にセットします。
②リング Ⓑ の解体ボルト取付部にナットAを取付、張るような形に取り付けます。(両側)

6



■解体

①ナットAを、レンチ、スパナ等で交互にゆっくりとネジ出しして管を解体してください。
②挿し口突部がロックリングに引っ掛かった場合は無理に抜こうとせずに管を上下左右に振ったり、解体矢の打込み状況を確認して、解体矢の打ち直しや、追加の打込みなどの措置をとってください。

7

■解体完了。

解体矢の種類と使用本数の目安

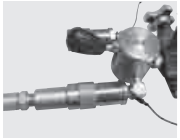
小口径(φ75～φ250)場合　　中口径(φ300・φ400)の場合
①直管用…3ｔ×300Ｌ　　③直管用…3.5ｔ×300Ｌ
②異形管用…3ｔ×190Ｌ　　④異形管用…3.5ｔ×170Ｌ
※使用本数の目安
φ75～φ250…約8～12本
φ300・φ400…約12～16本
必要に応じて使用本数を調整してください。

⑥ 手動ポンプ・電動ポンプ操作法

手動ポンプの操作

⚠ ※使用前に必ず手動ポンプの取扱説明書を熟読ください。

1



■カプラの接続

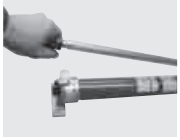
①シリンダー（油圧ホース）側と手動ポンプ（切換弁）側のカプラを接続します。（両側）

②接続後、外れ止め機構を作動させます。

2

■リリース弁ハンドルを右に回し、強く締め付けてください。

3



■ハンドル操作

①ハンドルを上下させ、圧力を上昇させ油圧シリンダーを伸長させてください。

電動ポンプの操作

⚠ ※使用前に必ず電動ポンプの取扱説明書を熟読ください。

1 ■カプラの接続

2 ■コードを電源に接続してください。

3 ■押しボタンスイッチを操作し、油圧シリンダーを伸長させる。

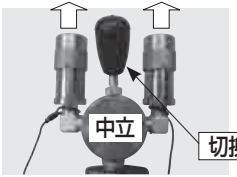
⑦ 切換弁の操作法

手動ポンプ及び、電動ポンプには切換弁が付いており、カプラ接続口に油圧シリンダー側のカプラを接続する事でシリンダーに圧力を送り込みます。

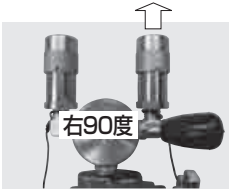
切換弁の操作により、スムーズな接合・解体が行えます。

■切換弁の操作

①切換レバーが中立の場合、接続したシリンダーが二つとも作動します。



②切換レバーを右に90度回すと、右側のシリンダーが作動します。



③切換レバーを左に90度回すと、左側のシリンダーが作動します。

❽ 取扱注意とメンテナンス方法

■全般

・落下や放り投げを避けてください。割れ破断につながる小さな割れ発生の可能性があります。
・油圧配管に砂が入らないよう、カプラ継手は脱着前に継手接合面を清掃してください。
（油圧ポンプに砂が入ると圧力が上がらなくなることがあります）

■油圧ポンプ、油圧シリンダー

・汚れはウエス等で拭取り、特にカプラ継手と継手樹脂キャップは清掃してください。

■リング等金属部品

・水洗い等で汚れを落とし、乾燥させてください。回転部には少量のスプレー潤滑剤を塗布してください。
・滑剤を使用するときは予め洗浄用の水を準備しておき、使用後真直ぐ付着した滑剤を洗い流してください。
・リングに使用されているゴムベルトは水分を嫌います。乾燥させてください。交換は純正品を使用してください。

■スリングベルト

・カバー布等が傷まないよう、重量物の下敷きにしたり強く擦り付けたりしないでください。
・日射と水分を嫌います。濡れた時は陰干ししてください。
・消耗品です。引張荷重が繰り返し作用すると長さが縮み傾向となります。同じ長さの組合せで使用してください。個々のベルトの使用期限を管理すると寿命予測に役立てることができます。